

特集「ITSとモバイルコンピューティング」の編集にあたって

松 下 温†

IMT-2000の次世代高速移動通信であるW-CDMAとcdma-2000が相次いで実用化される予定であり、移動体のための高速データ通信の環境が急速に整備されることになる。一方、車の安全確保と渋滞緩和のための道路のインテリジェント化がITSという名のもとに世界的な規模で進行中である。日本でも高速道路の料金自動収受(ETC)が導入され、数年のうちに全国的な展開がなされる予定である。このETCを機に路側のインテリジェント化の研究が活発化している。さらに、VICSの普及とカーナビシステムの普及で車載機のインテリジェント化も急進している。このIMT-2000の発達とITS研究は位置情報を利用する案内サービスやパーソナルナビなどの新しいアプリケーション開発を刺激し、インターネットとIMT-2000とITSの通信インフラとを相互接続したり融合したりする新しいネットワーク形態を登場させようとしている。

このような背景から、モバイルコンピューティングとワイヤレス研究会と高度交通システム研究会が連携して、新しい境界研究を発掘するために本特集号を企画したものである。

今回は29件の論文の投稿があり、各論文の査読責任を本特集委員会の委員に振り分け、各論文をすくなくとも2名の査読者に査読をお願いした。その結果17件の論文が採択され、11件が不採録となり、1件が取り下げによる辞退となった。不採録の中にも優秀なものが数多く、ちょっとした評価を実施すれば採録になると予想されるため、手直しによる再投稿を呼びかけることにした。

採録された17件の論文の内容を分類すると、交通シ

ミュレーションに関するもの2件、ドライバのヒューマンインタフェースに関するもの3件、ネットワークと車載システムに関するもの2件、プロトコルと通信方式に関するもの6件、位置情報に関するもの4件となる。

交通シミュレーションに関するものとドライバのヒューマンマシンインタフェースに関する5件はITS特有のもので、ドライバの挙動を安全支援につなげる研究と位置付けられる。そのほかの12件はITSとモバイルを融合させる研究で今後ますます研究が活性化すると予想される。異なる官庁が監督する目的の異なる通信メディアを連携融合させる研究がますます活発化させることが、本特集号を編集するにあたって我々学会が担う重要な役割と、あらためて認識した次第である。

[ITSとモバイルコンピューティング] 特集編集委員会

- 編集長
松下 温(慶大)
- 編集委員
井手口哲夫(愛知県立大)
岡本 利夫(東芝)
小花 貞夫(KDDI研究所)
黒田 正博(三菱電機)
寺岡 文男(慶大)
東野 輝夫(阪大)
水野 忠則(静岡大)
屋代 智之(千葉工大)

† 慶應義塾大学